

地球市民フェスタ in 岡山2006

世界を知ろう  
「子どものための国際理解講座」  
— こんなにちがう世界の国々 —

平成18年10月29日(日)



岡山国際交流センターの5階第一会議室で、上記の会が開かれました。

最初に、本会副会長で芥子山小学校の赤坂校長から開会あいさつがありました。地球が狭くなり、岡山でも外国の方をよく見かけるようになっていること、また、日本人もたくさんの方が世界に出て活躍していることから、今日は、世界の国々のことを知って楽しんでほしいと話されました。



最初の発表は、ペルーのリマ日本人学校に4年間勤務された藤森卓麻先生です。

まず、ペルーの気候です。南半球にあるため、日本とは季節が逆になります。赤道に近いのですが、南極から寒流が流れてくるため、暑さ寒さが日本より厳しくないそうです。

首都のリマは、人口が700万人の大都市です。品物が豊富で、市場に行くと安くておいしいものが手に入ります。人々は陽気でパーティーが大好きです。日本からの移民が多く、4世ぐらいになると、顔は日本人でもスペイン語しか分からない人もたくさんいます。

次に、地形です。リマは、海の近くにあり、周辺は砂漠です。しかし、自動車でも5時間くらい走るとアンデス山脈の4800mの峠に至ります。世界一高い湖のチチカカ湖もあります。もっと内陸に行くとジャングルとなってアマゾン川の源流があります。

それから、有名な観光地ですが、マチュピチュの空中都市やクスコの町、ナスカの地上絵などがあります。

最後に、リマ日本人学校ですが、小・中学校全校で50人、教師が10人の小規模校です。安全の確保のため8人の警備員が24時間勤務しています。日本と同じように、運動会や文化祭、キャンプなどを行っていて、みんな元気に過ごしています。



次の発表は、台湾の台中日本人学校に4年間勤務された桑本康則先生です。

台湾は、日本からわずか3時間足らずの空の旅で着く九州より少し小さい島です。ポルトガル語で「フォルモサ」麗しの島と言われる自然豊かな島です。北回帰線が通っているため夏至には影がなくなります。かつて戦争が終わるまでの50年間、日本が統治していましたが、韓国や北朝鮮、中国などと違って、日本人に対して親しみをもっている人が多いです。現地の高校や大学では日本語学習の人気の高いそうです。ケーブルテレビ100局の中、日本の番組も4つあるそうです。

さて、台中は100万都市ですが、治安は良く、夜市では楽しく買い物や食事ができます。バイクがものすごく多いのも特徴です。国際免許が使えないため、教習所に通って免許を取ったそうです。中国とまだ政治的な課題があり、軍事訓練を全国的に実施し、高速道路に戦闘機が離着陸することもあります。

最後に、台中日本人学校ですが、数年前に地震で倒壊し、現在は新校舎ができています。その際には、岡山からも多くの援助があったそうです。校内にはマンゴやバナナの木がなっていたり、毒へびが現れたりして日本とまた違う生活となっています。台湾の現地校とも交流していますが、5000人の学校があったり、9校時まであったりと、日本とは大きな違いがあります。



台湾の展示コーナー



ペルーの展示コーナー



ロシアの展示コーナー



ロシアの民族衣装



南アフリカの5つのアニマル



試食タイム



バナナの唐揚げ (インドネシア)



チチャモラーダ (ペルー)



ブリヌイ (ロシアの厚焼きクレープ)